

2019 年度 日本小児耳鼻咽喉科学会 理事会議事録

日時:2019 年 5 月 22 日 (水) 14 時 40 分～16 時 25 分

場所:福岡国際会議場 4 階 会議室 414

出席者:内藤健晴(理事長)、今井丈英、小川 郁、香取幸夫、黒野祐一、齋藤康一郎、鈴鹿有子、竹内万彦、武田憲昭、土井勝美、仲野敦子、二藤隆春、兵頭政光、益田 慎、三輪高喜、吉川 衛(理事)、後藤友佳子(監事)、市村恵一、川城信子(顧問)、中川尚志(会長)、澤津橋基広(年次幹事)、小森正博(次期年次幹事)、有本友季子、香山智佳子、小森 学(幹事)、伊藤真人、小林一女、守本倫子(アドバイザー)、早坂駿吾、中西秀彦(事務局)(50 音順, 敬称略)

内藤健晴理事長挨拶

本理事会は出席者と委任状で定足数を満たしていることが報告された。議事録署名人には武田理事と今井理事が指名された。本大会開催にあたっての挨拶として理事会出席者および中川尚志会長への謝辞が述べられた。

中川尚志会長挨拶

第 14 回日本小児耳鼻咽喉科学会を開催するにあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

I. 報告事項

1. 庶務報告(仲野理事)

1-1. 2018 年度事業報告

1. 第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2018 年 7 月 12 日～7 月 13 日の 2 日間、横浜市において東海大学小児科 望月博之会長のもとに開催した。
2. 第 14 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2019 年に九州大学耳鼻咽喉科 中川尚志会長のもと開催に向け準備をした。
3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第 39 巻 2 号、3 号および第 40 巻 1 号を刊行した。
4. 理事会および評議員会を 2018 年 7 月 11 日に開催した。
5. 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。

6. 小児期外科系関連学会協議会に出席し、日本小児連絡協議会の活動に委員として協力した。
7. 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの改訂に委員として協力した。
8. 会員名簿情報の収集、把握に努めた。
9. その他学会活動を行った。
10. 日本小児耳鼻咽喉科学会 会員数 2019年4月30日現在

| | |
|-------|-------|
| 正会員 | 1232名 |
| 購読会員 | 13名 |
| 寄贈会員 | 3名 |
| <hr/> | |
| | 1248名 |

(入会者数 128名、退会者 81名、物故者 4名)

1-2. 四者協の件

日本小児期外科系関連学会協議会(四者協)の関連行事への参加報告がなされた。乳幼児健診講習会には講師として益田理事が、重症心身障害児(者)・在宅医療委員会と予防接種推進専門協議会には守本アドバイザーが、第56回日本小児外科学会での耳鼻咽喉科としての活動報告には仲野理事が、それぞれ参加したことが報告された。また、日本小児科学会より会員周知用で「小児在宅医療実技講習会マニュアル」をいただいていることが報告された。

1-3. ICT アンケート調査協力の件

日本耳鼻咽喉科学会より調査依頼があり、庶務担当理事として回答したことが報告された。

2. 会計(土井理事)

2018年度決算報告は協議事項に記載。

3. 学術誌編集(二藤理事)

学会誌 39巻2号、3号、40巻1号を刊行したこと、故・古賀慶次郎名誉会員の追悼文を掲載したこと、広告掲載企業の状況が、それぞれ報告された。

4. ホームページ広報(益田理事)

特に報告事項なし。

5. 用語(香取理事)

特に報告事項なし。

6. 保険医療(三輪理事)

特に報告事項なし。

7. 会則改定(兵頭理事)

学会ホームページ上の会則細則第 1 条 5. の休会の規定が抜け落ちていたことが判明したため、再度、掲載したことが報告された。

8. 学術(国際)(小川理事)

KSP0(韓国小児耳鼻咽喉科学会)から当学会のメンバーを学術集会に招待したい旨の申し出が中川会長(第 14 回)宛にあった。本来は今年(2019 年)の開催であったが来年(2020 年)に延期になったため詳細が決まりしだい KSP0 から連絡があることが報告された。

2019 年 4 月 7 日～10 日に第 1 回 World Congress of Pediatric Otorhinolaryngology がブエノスアイレスで開催され、日本から 4 名の先生方が参加されたことが報告された。

ESPO(欧州小児耳鼻咽喉科学会)について、2020 年にマルセイユ、2022 年にリバプールでそれぞれ開催されることが報告された。

また、内藤理事長より補足で、当学会に関連する国際学会の情報を日本耳鼻咽喉科学会に提供しよう小川理事に依頼したことが報告された。

9. 学術(国内)(武田理事)

日本耳鼻咽喉科学会より依頼のあった第 121 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会の企画への協力をお願いについて、プログラム案を提案したことが報告された。

第 34 回専門医講習会については、提案予定であることが報告された。

10. 専門医(吉川理事)

特に報告事項なし。

11. 男女共同参画(鈴鹿理事)

特に報告事項なし。

12. 小児科領域企画推進事業(代. 今井理事)

特に報告事項なし。

13. その他

13-1. メール審議報告(内藤理事長)

前回理事会(2018年7月11日開催)以降のメール審議の内容が報告された。

13-2. 日本耳鼻咽喉科学会・関連する学会会議報告(内藤理事長)

日本耳鼻咽喉科学会が新たに発行した会員証(ICカード)を利用して、今回の第14回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会の参加登録等が実施されることになったことが報告された。また、日本耳鼻咽喉科学会・関連する学会の将来的な在り方について議論になっていることが報告された。

13-3. 一般の方からの当学会への医療施設紹介に関する問い合わせの件について(内藤理事長)

当学会では個別の医院等の紹介を行っていないため、お断りしたことが報告された。

13-4. 住所不明者の扱いの件(仲野理事)

学会誌を郵送して返送されてきた住所不明者について、可能な限り旧所属先などを通じて連絡を取り、会員資格を継続されるか否かの確認を行っている。連絡が取れない住所不明者については、学会誌を送り続けることはせず、その後3年間会費未納入であった場合に会則に従い理事会の議を経て退会の手続きを取ることが、土井理事との相談の上、決められたことが報告された。

13-5. 会計年度締めめの件(土井理事・二藤理事)

会計年度の変更について、2019年2月のメール審議で承認されたことを受け、2019年度は会計年度が2019年5月1日～2020年3月31日の11か月間となり、2020年度以降は4月1日～翌年3月31日の12か月となることが報告された。

また、毎年2月に会員に対して会員資格の継続意思の確認を取り、退会希望の会員については3月末で退会とする。学会誌もこれまでは会計年度内で2号、3号、翌年1号の発送だったが、今後は年度内に1号、2号、3号の順番での発送に変更となることが報告された。

13-6. 第 15 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(兵頭次期会長)

第 15 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況の報告がなされた。2020 年 7 月 2 日～3 日に三翠園(高知市)で開催されること、テーマは「未来へ育む！」であることが報告された。

13-7. 第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(土井次々期会長)

第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況の報告がなされた。2021 年 7 月 8 日～9 日に大阪国際会議場(大阪市)で開催されることが報告された。

II. 審議事項

1. 2018 年度決算報告(土井理事)

2018 年度日本小児耳鼻咽喉科学会決算(2018 年 5 月 1 日～2019 年 4 月 30 日)および資産が報告され、承認された。

2. 会計監査報告(後藤監事)

日本小児耳鼻咽喉科学会 2018 年度決算書類を監査した結果、適正であることが報告され、承認された。

3. 2019 年度事業計画(案)(仲野理事)

1. 第 14 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2019 年 5 月 23 日～5 月 24 日の 2 日間、福岡市において九州大学耳鼻咽喉科 中川尚志会長のもとで開催する。
2. 第 15 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2020 年に高知大学耳鼻咽喉科 兵頭政光会長のもと開催に向け準備する。
3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第 40 巻 2 号、3 号を刊行する。
4. 理事会および評議員会を 2019 年 5 月 22 日に開催する。
5. その他学会活動を行う。

以上、審議され、承認された。

4. 2019 年度予算(案)(土井理事)

2019 年度日本小児耳鼻咽喉科学会予算(2019 年 5 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)について審議され、承認された。

5. 評議員の推薦(仲野理事)

評議員として以下の1名が推薦され、承認された。

樫尾明憲先生(東京大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)。

6. 年次幹事の推薦(仲野理事)

高知大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の小森正博先生が推薦され承認された。

7. 会費値上げの件について(土井理事)

当学会の収支が毎年わずかに赤字になっていることから、会費を上げるか会費を上げずに学会誌を電子化した場合の会計収支のシミュレーションを行ったことが報告された。シミュレーションの結果、このまま何も変更しなければ毎年約50万円の赤字、会費を8,000円に上げると毎年約70万円の黒字、学会誌の電子化となる場合は毎年約120万円の黒字になることが報告された。本件については、会計(土井理事)、庶務(仲野理事)、HP広報(益田理事)、学術誌編集(二藤理事)をメンバーとする会計健全化検討ワーキンググループを立ち上げることとなった。

8. 「小児在宅医療実技講習会マニュアル」の会員周知の件(益田理事)

会員周知用で「小児在宅医療実技講習会マニュアル」を日本小児科学会から提供されたが、現状、当学会では広く広報する手段がない。日本小児科学会のホームページで設けられている会員専用ページのようなページを当学会でも設けることが提案され、承認された。なお、本件に関わる支出として約17万円が必要とされ、2019年度予算の予備費から支出することで承認された。

9. 小児耳鼻咽喉科学会 COI 規定の改正の件(兵頭理事)

COI開示の対象を過去1年間から過去3年間に広げること、開示の対象者を筆頭演者(筆頭著者)のみから共同演者(共同著者)に広げること、役員・委員会委員については開示の対象をご本人のみから配偶者、一親等内の親族・配偶者、収入財産的利益を共有する者に広げること、研究費、奨学寄附金の開示の対象を200万円以上から100万円以上に変更することを骨子とする「日本小児耳鼻咽喉科学会の利益相反に関する指針」の改定案が提案され、承認された。

10. 小児の閉塞性睡眠時無呼吸の調査の件(代. 今井理事)

当学会でワーキンググループを立ち上げた上で、日本小児呼吸器疾患学会と合同で、小児の閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)に対する我が国における診療内容に関する実態調査を行うことが提案され、承認された。

11. 選挙管理委員会発足について(内藤理事長)

会則細則に基づき、有本幹事、小森幹事、香山幹事の3名が推薦され、承認された。

12. APOG の件について(内藤理事長)

2023 年の APOG の日本開催の打診があることが報告された。2019 年はバンコクで 10 月 10 日・11 日に開催されるが、そこで正式に開催地が決まる。日本開催が決定された場合、中川尚志先生(九州大学耳鼻咽喉科)が会長として開催の予定である。中川先生が APOG の会長として日本で開催するにあたり、日本小児耳鼻咽喉科学会は経済的支援を伴わない後援として協力することが承認された。

13. 第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長・副会長推薦(内藤理事長)

第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長に富山大学小児科の足立雄一教授、副会長に富山大学耳鼻咽喉科の將積日出夫教授がそれぞれ推薦され承認された。

以上

理事長:内藤健晴

庶務担当:仲野敦子

庶務アドバイザー:守本倫子

幹事:有本友季子

小森 学

(文責)香山智佳子